

# 三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

## 三條別院に想う

微かに残る三條別院に関わる最初の記憶？

- 1 本町通りを行進―歩かされて。
- 2 幼稚園の小さな椅子―腰掛けて食事して。
- 3 参詣の人で埋まった本堂―人混みの中に押し込められて。

三つの場面が同じ日とは言い切れないが、小学校五、六年頃？

今思えば七百回御遠忌かその関連行事でしようか。本堂右端から内陣や参詣の間を見た絵、外陣隅や余間後ろまで参詣の人で埋まっていたんでしょう。

本町通りのパレード―きつと町中巻き込んでの大騒ぎ―したことを含めて考えると、七百回御遠忌の盛大さが想像されます。

今ほど交通事情の良くなく、別院に寄り辛い時代なのに、先人たちはすごかったですね。

それから五十年、どれくらい別院と関わっただろうか？ 報恩講に出仕し始めて三十有余年、一年を除いてほぼ全出仕。今年も報恩講が近づいて、そろそろ習礼の時期がくる。夏の疲れも

取れぬ今、体力に不安を隠せない。

そして来年には七百五十回御遠忌をお迎えする。先人が七百回の御遠忌を如何にお迎えたか想像し得ないけれど、いずれ時がくる御遠忌を迎える覚悟があるかと問われたら甚だ心許なくなるのはわたしだけでしようか？ 体力に不安を抱えながら先の見えない始めての法要を迎えるのだから。それでも五十年に一度の大法要を迎えるのはワクワクするし楽しみです。

書き出しの記憶に始まり、今までどれだけ足を運んだらう？ 何泊したららう？

やっぱり毎年の報恩講をメインに、会議、講習会、月例会に、加えて組の各種行事です。特に御遠忌事業が始まり二〇二二、三年は三日に一度や、三日連続も珍しくもないです。これ以上の方も大勢、そんな皆さんにとって生活の場ですよね。

昨日、明日、明後日と伺います。

(第十六組善興寺 長田 暢 氏)

## ○次回の「三條別院に想う」は、

佐々木 一人氏 (第十六組淨智寺) より

ご執筆いただきます

## 朝の人生講座・夏の御文報告

平常は七時から勤められる農朝を、六時に早めて開催される朝の人生講座。夏中のみ勤められる蓮如上人晩年の御消息である『夏の御文』が、本年も人生講座に併せて輪番・列座により拝読されました。「うかうかと」お参りするのではなく「御耳をすましてよくよくきこしめし候べし」(一通目)と蓮如上人は厳しく語られています。

講師と講師は以下の通り。二十二日、佐々木秀英(第十組光圓寺)氏「夜明けの前は闇に決まっている」、二十三日、中島義紘氏(三條真宗学院講師)「釈教歌・今様の世界―仏教と日本文学②」、二十四日、安富信哉氏(教学研究所所長)

「人生の今を生きる」、二十五日、光井栄泉氏(第十六組願善寺)「そのまんま、そのまんま」。佐々木氏は、常にものを対象化する我執の深さ、「仏教」や「他力」すらも「こうあるべき」としてしまふ人間の業の深さを語られました。中島氏は「仏教と日本文学」というテーマの第二回で、親鸞聖人の「和讃」に結実するまで、和歌や歌謡で仏教を詠んでいくという伝統が日本にあったことを詳細な資料で解説されました。安富氏は生老病死の中で、特に「病」について、永観・法然・聖覚・鎌倉二位の禅尼(北条政子)、金子大栄などの言葉を通して「転重軽



【安富信哉教研所所長】



【佐々木氏（上）、中島氏（下）】



【光井氏による別院の歴史】

受」の思想(病の苦しみは断じること  
ができて、  
ないが、  
軽微に  
転じることができると)を説かれました。最終日の  
光井氏は別院のお取り越しで鍵役の接待を長く  
勤められた御門徒の話をされました。肺の手術を  
された時、「このまんま、このまんま」という力  
みが「そのまんま、そのまんま」という外からの  
声に変わった時に抜けていったと、生前、光井氏  
に語られたそうです。親鸞聖人御遠忌法要を機に  
あらためて別院の歴史に聞くというテーマの一  
環のお話でしたが、別院の歴史は別院を支えてき  
た人々の歴史であり、お朝事にお参りに来られて  
いる御門徒一人一人の歴史なのだと思えて感じ  
ました。朝の人生講座は秋彼岸会にも併せて開催  
されますので、有縁の方々をお誘いの上、ぜひご  
参詣ください。

### ■御遠忌特別法話(本願寺におけるお齋)

三条市内の料理屋が協力して創作する御遠忌  
弁当。その一環として浄土真宗にとつての「お齋」  
とは何かを、歴史の視点からお話しいただきます。  
◇期 日 九月十二日(金) 十時三十分～十二時  
◇講師 西山郷史 氏(能登教区西勝寺)  
「本願寺におけるお齋(精進料理)について」

### ■秋彼岸会のご案内

左記のとおり、秋彼岸会を勤修いたします。な  
お、本年は越後に下向されたことでも親しまれて  
いる東本願寺二十代達如上人の百五十回忌にあ  
たります。当別院では彼岸会期間中に一昼夜法要  
を兼修いたします。また、例年通り、朝の人生講  
座を期間中毎朝開催いたします。

◆日時 九月二十日(土)～二十二日(月)

◇二十一日 速夜法要後には森 恵成氏(高田教区  
善巧寺)により「達如上人の事績に聞く」とい  
うテーマでご法話をいただきます。

◇九月二十一日(日) 午前十二時半～午後四時ま  
で、仮本堂にて東日本大震災復興支援チャリテ  
ィーバザーを開催します。  
※彼岸会の詳細は案内チラシをご覧ください。

### ■御命日(二十八日)の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八  
日に、「御命日の集い」を本堂(現在は仮本堂)に  
て、日中法要と法話、その後、座談会の場を開い  
ております。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午  
後一時三十分よりお勤めをしております。

### 【九月二十八日(木)】

午前十時 お勤め(御命日 日中法要)  
文類偈 行四句目下 念仏讚 淘五  
和讃 回口 次第六首 回向 願以此功德

### ◎今月の法話講師

目黒公恭氏 (真宗学院第二期卒業生)

◇今後の講師一覧

十月 村手 淳史氏(第二十組光圓寺)

十一月 巨谷 学氏(第十組善了寺)

十二月 北島 栄誠氏(第十一組長福寺)

### ■女性僧侶による音楽法要習礼について

本年のお取り越し報恩講に向けての女性僧侶  
による習礼がはじまってまいります。

◇習礼 九月三日、十六日、十月八日、十七日、  
二十四日、二十八日(最終リハーサル)

◇講師 多田 誓 氏(第十組専徳寺)

### ■定例法話会のご案内

毎月十三日は、「両度の命日」と呼ばれている  
前門首のご命日です。また、  
蓮如上人も御文の中で、この  
「両度の命日」についてお書  
きになられています。(四帖  
目十二通)

旧御堂にて開催しており  
ましたが、改修工事に伴い、



【まきの大地展の裏話も】

一年間仮本堂（同朋会館二階）での開催となりま  
す。皆様、お気軽にお越しください。

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く  
午後一時三十分より（二時間程度）

◇場所 三条別院 仮本堂

◇講師 九月〜十二月  
富沢慶栄氏 第十一組超願寺

※大盛況に終わった「親鸞とよむの大地展」。新潟親鸞学会  
事務局の高澤氏に、全四回で「法話をお願いしております。

### 別院声明教室のご案内

今年度前半は普通寺院の報恩講のお勤めを中  
心に学びます。是非一緒に学びましょう。

◇開催日 九月五日（金）、十月十六日（木）  
十一月十三日（木）、十二月十一日（木）

◇時間 午後六時より午後八時まで

◇講習内容 正信偈 真四句目下 念仏讃 淘五

◇講師 源川秀教氏（第十一組 圓満寺）

◇持ち物 『大谷聲明集上』、念珠、筆記具

◇参加費 五〇〇円/回

### 別院書道教室のご案内

◇開催日 毎月二回（第二、第四水曜日）

◇時間 午後六時三十分〜八時

◇講師 木原光威氏（新潟書道協会理事）

◇月謝 二五〇〇円（テキスト代含む）

### 別院奉仕研修・別院巡回については平常通り

受付けておりますので、「希望の場合は別院  
までご連絡ください。

### 私たちが、別院有志の会です！（会員の声）

なにかと忙しいお盆が過ぎ、毎年の「夏の御  
文」ひき続き「朝の人生講座」今年も仮本堂と  
いうことでのいرونな面で心配はありましたが、  
いつもおいでになる方々と、また、はじめての  
方々に「おはようございます」と四日間挨拶が  
できたことに感謝でした。四日目の新潟市西蒲  
区願善寺住職光井氏の「別院に通われたご門徒  
さん」の話、「別院に行つてますか」と聞かれて  
「この頃、のどがかわくんです」と答えられた  
そうです。なんと、なんと、素晴らしい、こう  
いう先輩がいられたんだ、こういう先輩方に支  
えられていたんだ、と話を聞き頭が下がしまし  
た。こういう先輩方々に「御同朋だよ、御同行  
だよ」と言っていただけのように、出来る限り  
そのすがたを追って往きたいと思いました。

そして九月はお彼岸です、チャリティーバザー  
です、今回もやります。去年あたりから「別院フ  
ォラム」でもうやらないんですか、毎年楽しみ  
にしていたんですけど」という町の人の声、とか  
「別院はもう品物集めないの」という坊守さん方  
の声が聞こえて来ました。聞いたからにはやらな  
きゃ、大事な町の人の声、大事な坊守さん方の声、  
もつたいたい、もつたいたい、有難い、感謝です。  
ということ、物品募集、そして別院でいっしょ  
に聞法し、お手伝いしてくださる有志の会、会員  
大募集中です。いっしょに：仏法の水で渴いた喉  
を潤し、仏法の水にどっふり浸かりながら、語ら  
いませんか…

（山田恵美子）

### 新任職員挨拶

このたび、六月一日付けで三条  
別院非常勤嘱託のご縁をいただき  
ました。三条教区第二十三組・一  
樂寺 長谷部秀朗（はせべひであ  
き）と申します。地元には白鳥の渡



来地として有名な瓢湖があり、冬には湖や周辺の  
田で多くの白鳥を見ることが出来ます。

昨年の春に三条真宗学院に入学してから別院  
に関わるようになり、別院で行われる様々な行  
事のお手伝いをさせて頂いておりましたところ、  
別院職員の方から非常勤嘱託のお誘いをいただ  
きました。「私でよければ是非！」飛びつくよう  
にお返事をさせて頂いたが、晴れて別院の末席  
に加わることとなりました。一年前は想像もし  
ていなかった事に、縁というものは本当に不思議  
なものだと改めて感じております。

現在別院・教務所では十一月の報恩講、また  
来年五月の教区御遠忌法要を迎えるにあたり、  
様々な準備・事業が行われております。事務所  
の予定表を見ますと、びっしりと予定が書き込  
まれており初めて見た時は圧倒されてしまいま  
した。まだ右も左も分からない状況ですが、自  
分の出来る事を見つけて、日々精一杯力を尽く  
していく所存です。至らぬ所も多々ございます  
が、これからもこの縁を頂いた有り難さを忘れ  
ずに、皆様と共に歩んでまいりたいと存じま  
す。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞ  
宜しくお願い申し上げます。

（長谷部）